

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		17,352	t-CO ₂
① （温を除く 二室除 酸効く 化果 炭ガ 素換 排出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		17,352

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	17,352	t-CO ₂	16,623	t-CO ₂	4.2

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排出量		t-CO ₂		t-CO ₂	

（2）目標設定の考え方

<ul style="list-style-type: none"> 省エネ活動による削減目標値。（温室効果ガス総排出量を1%/年、3年間で3%削減する。）

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
一般管理（管理体制の整備）	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関による環境マネジメントシステムの導入（省エネの推進） 	
一般管理（エネルギー使用量の把握及び管理）	<ul style="list-style-type: none"> 監視装置により、デマンドピーク予測を行い、ピーク最大需要電力を抑制する。 電力の見える化を行い、従業員へエネルギー使用の意識をすることで電力抑制を行う。 	
省エネルギー・省資源の推進（空調負荷軽減）	<ul style="list-style-type: none"> 空調エリア縮小、空調設備の更新による効率化。 エアコン空調設備の高効率機器の導入。 	
省エネルギー・省資源の推進（運転管理の適正化）	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーを目的とした投資の実行。 夏期・冬季の居室空調温度設定管理強化。 中間期・冬季の運用方法見直しによるエネルギー負荷軽減。 	
省エネルギー・省資源の推進（照明）	<ul style="list-style-type: none"> 蛍光灯、白熱灯からLED器具への更新 省エネ実行計画書の立案と実行。1回/月のフォロー 	
製造工程における対策	<ul style="list-style-type: none"> ライン製造工程最適化（製造エネルギー原単位改善、収率改善）によるエネルギーロス削減。 	

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

<ul style="list-style-type: none">・環境教育 (工場内で働く全ての人への定期的な環境教育の実施)・廃棄物の排出抑制 (DX化によるペーパーレス化)・日次取水量のフォローを実行し、早期漏水発生の認知、対応の実行。
--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--